

日 時	令和5年8月8日（火）10：00～12：00	場 所	旧中医学研究所 2階
内 容	令和5年度 第1回 旧下田中学校・旧中医学研究所有効活用検討会		
次 第	1 開会 2 主催者あいさつ 3 日程・検討会の概要説明 4 自己紹介 5 会長及び副会長の選出 6 報告事項 (1) 検討会のスケジュール等 (2) 施設概要、整備状況について (3) 施設視察（旧中医学研究所・旧下田中学校） (4) 有効活用についての提案等について 7 検討事項 (1) 有効活用基本方針（案）について (2) 意見交換 (3) その他 8 その他 9 閉会		
出席者	岡村委員、宮村委員、尾崎委員、宮崎委員、佐田委員、三浦委員、山本委員、片岡委員、久保委員、前田委員、有原委員、阪本委員、須山委員、山下委員、谷口委員、田能副市長、武田企画広報課長、田邊室長、永野主幹		
会 議 の 概 要 と 結 果			
1 開会 令和5年度第1回旧下田中学校・旧中医学研究所有効活用検討会（以下、検討会）は委員全員が出席し、定刻どおりに開会した。 会長が選出されるまで、会の議事進行は事務局が行った。			
2 主催者あいさつ 開催にあたり副市長からあいさつがあった。			
3 日程・検討会の概要説明 田邊室長が説明を行った。			
<日程> 次第の詳細説明のため議事録では省略			
<検討会について> ・旧下田中学校・旧中医学研究所有効活用検討会設置要綱（以下、検討会要綱）第1条のとおり、両施設を有効活用することにより、地域の活性化を推進することを目的としたもの。【資料①】 ・検討会の構成メンバーは、検討会要綱第3条に基づき構成している。【資料②】 ・検討会は法令に基づく審議会でなく、議論を交わすための私的諮問機関として、様々な意見を			

お聞きする場である。

・検討を進めて行くにあたり、四万十市役所庁内に有効活用検討プロジェクトチーム（以下「PT」という。）を立ち上げており、PTは検討会に対して様々な情報提供を行うとともに、検討会で出された活用案等についての検証を行う。検討会とPTが相互に情報共有・連携しながら有効活用へ意見を集約していく。【資料③】

<委員及び傍聴人へお伝えしたこと>

・本日は初回のため、検討会の概要やスケジュール、施設の概要等についての現状の説明となる。有効活用案についての個別案件の議論については、次回以降となる。

・検討会については原則公開としているが、今後、個人情報や企業の利益に関する事など、公開することが適当でないとする場合は非公開にさせて頂く場合がある。

・傍聴席からの発言等については検討会の円滑な進行のため、ご遠慮いただきたい。

4 自己紹介

委員 15 名及び事務局（4 名）が自己紹介を行った。

5 会長及び副会長の選出

検討会要綱第 5 条の規定に基づき、自薦もしくは他薦を募った。

自薦 阪本委員（会長もしくは副会長へ立候補）

他薦 山下委員（岡村委員を会長候補として他薦）

以上 2 件の自他薦があり、事務局がこの結果を取りまとめ、会長に岡村委員、副会長に阪本委員とすることを提案した。

→一同、異議なし。以下の議事進行は事務局から岡村会長へ引き継がれた。

6 報告事項

(1) 検討会のスケジュール等【資料④】

- ・有効活用案の意見の集約（令和 6 年 3 月頃まで）
- ・意見集約後、施設に関する活用・整備計画を作成し、令和 7 年度より施設整備を実施する予定。
- ・検討会の実施回数は 2 ヶ月に 1 回程度を想定。今年度中には今回を除き 4 回程度の開催を考えている。

(2) 施設概要、整備状況について

【資料⑤】参照

(3) 施設視察（旧中医学研究所・旧下田中学校）

2 つの施設を視察した。時間の都合により検討会の委員及び報道関係者のみの参加とした。

(4) 有効活用についての提案等について

現時点での市民や事業者、市役所庁内での活用提案等について情報提供を行った。【資料⑥】

※時間の都合により、質疑応答は意見交換時にまとめて行うこととした。

7 検討事項

(1) 有効活用方針（案）について

委員には事前に資料送付しているため、各ページの要点のみ説明を行った。【資料⑦】

(2) 意見交換

○山本委員

旧下田中学校などは部屋数も多い。全て活用するのではなく、1階や2階のみも可能か？

また、発想を変えて、中学校を取り壊し別の形で利活用することは可能か？

→岡村会長による質問への補足

一つの目的のために活用するのか、利用に関する制約を設ける必要がある。

また、全ての施設を同様に扱う必要はないのではないか。

→事務局からの回答

検討会では様々な意見を出し合っていたきたい。出た意見をPTにおいて実現可能か話し合い、その結果を検討会にお伝えする。キャッチボールをしながら進めて行ってきたい。

また、全ての施設を一つの目的で利用せずとも構わない。利用目的で統一することは望ましいが、場合によっては分けて利用することも可能と考えている。旧中医学研究所にも複数のスペースがあるが、違う用途目的で活用することは可能ではないか。

○宮崎委員

1. 【資料⑥】の有効活用の提案等について、下田三地区の提案は市長に要望として提出したものである。他の提案は、誰が、どこに対し、どのような形で提出したものか？このような形よりは検討会で公募を募る等も一方法ではないか。

2. 有効活用基本方針（案）「(3) 検討における優先順位」(【資料⑦】P.8)の検討における優先順位で『「配慮事項」を踏まえ、優先的に検討する必要性が生じた場合は柔軟に対応することとした』となっている。

下田の区長としては、地域防災を最優先課題だと捉えており、「配慮事項」「必要が生じた場合」等の言葉に違和感がある。更に「施設活用等の基本的な考え方」(【資料⑦】P.3)で(1)有効活用方法の分類、(2)配慮事項、としているが基本的な考え方が逆ではないか。旧下田中学校等は重要な指定避難所で地域にとっては防災の拠点であり、優先順位を高いところに置いたうえでの有効活用の検討でなければいけないと考えている。

3. 有効活用基本方針（案）の中に学校教育関係の話が全然出ていない。一部あるのが再編計画（第2次）である。要望に出している学校の高台移転等について、検討会で検討するためには市の重要な計画である教育振興基本計画（教育大綱）が抜けているのではないか。

→事務局からの回答（1）

今年度より施設活用推進室ができ、それを受けて事業者、あるいは市民の方から直接企画広報課に提案されたものが多い。資料に市役所と書いてあるものは、庁内で募集した各課からの提案である。

→岡村会長からの補足質問

誰かがやったら良いのではないか、という提案でなく、「このようなことが我々にはできます」とのご提案があったという認識で良いか？

→事務局からの回答

大半はその認識でよい。

→事務局からの回答（２）

地域防災への配慮が必要であることは認識している。防災も市の重要な施策であり、方針（案）の『①市施策における有効活用』（【資料⑦】 P.8）の中に含まれていると考えている。

→岡村会長からの回答（３）

基本計画については、一つの意見として事務局に検討いただきたい。

○岡村会長

意見交換では出来る限り多くの方に発言してもらいたい。一人当たり 1～2分ほどしか残されていないが、委員の皆さまから他に感想や意見等はないか。

○片岡委員

民間の公募について市の方では行わないのか？

→事務局より回答

事業者提案募集については、検討会で伺いし、手法として取り入れるのであれば直ちに行いたいと考えている。募集に関して期間や範囲をどうするかにもよるが、応募者への説明会、現地見学など時間を要することも想定されるので、行うのであれば直ちに事務を進めたい。

○佐田委員

内閣府も地方創生の関係に補助金を出している。有効活用する際に、事業者が IT 関係であれば避難所等に影響を与えず来ていただける部分もあるのではないかと。中学校には大きな部屋もあるため、可能性はあるのではないかと。

○尾崎委員

先ほど視察に行った中学校について、指定避難所として使える状態ではない。電気工事等を優先的に行い、早く指定避難所として使える状態にして欲しい。

○宮村委員

区長会として、下田地区防災の活動拠点である 3つの施設を何とかしてほしいということはずっと市に要望してきた。その要望に応える形で今回の会に至ったと考えている。尾崎委員から話があったように、いまの 3施設を早急に使いたいという意向は皆さんの優先順位に入れていただきたい。

また、現状で出来ているもの、出来ていないものを次の会議で資料として出していただきたい。

○宮崎委員

看護大学が来ると言う事で指定避難所である校舎が使えなくなっている。下田地域の 1,000名が下田地域周辺の指定避難所等に避難しなければならないが、施設に収容しきれずテント避難生活を余儀なくされている。このように厳しい状況であり校舎を早急に避難所として使えるようにし

ていただきたい。

○阪本副会長

四万十市では今後も介護の要介護者が増え、介護者が居ない状況が想定される。福祉の専門学校を移設するのはどうか。

- ・福祉の専門学校をすることにより、幡多地域の介護・福祉の基礎レベル向上できる。
 - ・高校卒業された方々、進学に困られた方々、子育てを終えた世代に学べる場を提供する。
 - ・介護の基礎レベルの向上により安心して皆さんが介護を受けられる環境を整える。
- また、懸念点となる学費に関しても、奨学金を免除出来る制度がある。
進学先を確保することで外部への人口流出を抑え、他府県からの流入も期待できる。

○有原委員

有効活用の提案（【資料⑥】の一部）は、区長さんが下田の皆さんの声を集め、とりまとめた出した要望であることを知っていただきたい。

大前提として、防災面、地元住民と子どもの命を最優先とし、高台にてそれを守るということを強く希望したい。その後の案は必要だとは思いますが、地域住民 1000 人程の命を守れる場所として、一番にまず考えていただきたい。

会議のスケジュールについて、現状差し迫った問題であるため集中審議していただきたい。次回日程についても、小中一貫校を考えるのであれば早めの協議をお願いしたい。集中審議が難しいのであれば、旧下田中学校の休校を 1 年期間延長等の検討はできないか。

また、義務教育学校を考えるのであれば実際に検討会で視察に行くのも良いのではないか。

○三浦委員

防災の拠点というのは大事なことだが、それ以外の時にどう有効活用するかという視点から、地域にお金の落ちる仕組みを考えるのはどうか。ワーケーションの拠点、集落活動センターを設ける、また、旧下田中学校 3 階部分は宿泊施設に使いながら、1 階は地域のコミュニティとするものなど。地域にお金が落ちる仕組み、災害時の有効活用、この二本立てで良いかと思う。

○山下委員

集落活動センターは、地域の方々が経済活動や福祉的な活動など、様々な取組みをされる仕組みの総称であり、幡多、県内ではスポーツ合宿などの宿泊、見守り、その他の取組みが行われている。集落活動センターを設けるのであれば、地元の方がどういった使い方をしていくか検討・調整が必要となる。

会議の冒頭のやり取りで、施設を複数の目的で使用することも可能ということであったので、これまで出た経済活動や防災などに関する活動の内容とその取組みに必要なスペース・使用時期等について、併せて検討してはどうか？

○前田委員

自分は下田地域に現在も住んでいる。現在下田に通っている子供たちもいるので、言葉は選ばねばならぬと思うが自分は下田中学校は役目をしっかり終えてくれたかなと思っている。

防災の優先順位は高いが、同様またはそれ以上に三浦委員の言われた地域にお金を落とすことも必要であると考え。この跡地をしっかりと運営していける、お金を落としてしっかりとみんなが

未来を繋いでいけるような場所にしないといけない。

区長の皆さんに会を重ねてもらい、提言をして頂いているが、自分はその会に参加していない。他にもそういう人は多い。下田の地域でも、大学誘致の断念等があったことでみんなが離れて行っている。地域も一枚岩でない。自分はそういう声も出したいという思いで市民公募に応募した。

○谷口委員

下田における大学誘致は実現しなかったけれど、逆に地域としては大きなチャンスを得たとも捉えられる。四万十市全体を見た時に、地域ごとに様々な課題があるなかで、下田では区長さんや、皆さん方が解決しようと動いている。

様々な立場からの要望と、市から出されている色々なアイデアの中に、重なるものがあるのではないか。今後出来る施設は、複合施設として利用するとともに、地域のコミュニティの場になればと思う。

○久保委員

子育て支援団体として参加させていただいた。防災、命、子どもたちの事も大切だと思う。

特色のある学校、小学校が上に上がるという提案の中で、子どもたちが田舎で物事を柔軟に考えられる体験型学習等の特色のある学校が四万十市に1校でもあったらよいなと考えた。

また、下田の公園は晴れた時に多くの方が訪れる場所であり、仮に屋内で遊ぶ施設があれば、雨天時にもその施設を利用できる。

今後の利活用を決めていき、子育て経験豊かな方、今後子育てをする方、また子どもたちが集えるような魅力的な場所になるよう、みんなで知恵を出し合いたい。

○須山委員

自分は移住者であり、集落支援員で黒尊川流域の担当をしており、地域活性化や学校の活用を色々調べている。特色ある学校に通わせたいために移住する人が実際にいる。中には海外から応募がある学校もある。

四国はすごく魅力があるところで、下田は可能性があるところ。学校を作ることは防災、避難所にもなる。海の下田、山の黒尊でやっていきたい。

以上で意見交換を終了した。(3) その他は省略した。

8 その他

○岡村会長

第2回目以降、もう少し突っ込んだような議論になっていく。

ご意見は、主に防災、それから教育、産業、福祉や暮らし、子育て分野について。それらをベースに次回は進めて行ければと思う。

また、委員から『民間の意見を公募しないのか』という質問があった。事務局はいかがか。

→事務局からの回答

民間事業者からの意見募集には早速取り掛かりたい。事務を進め、次の検討会で進捗状況を報告させていただくことでよろしいか。

事務局の意見を受け、岡村会長が委員へ公募実施について問いかけた。

→一同、異議なし。

○有原委員

次回までに現在案で出されているものについて、もう少し詳しく情報が欲しい。

→一同、異議なし。その他を終了した。

9 閉会

閉会にあたり、副会長からあいさつがあった。

また副会長より第2回目の開催について、スケジュールを示していただきたいとの質問。

→事務局より回答

次回は9月下旬から10月上旬での開催になる。

その後、岡村会長が閉会を宣言し終了。以上

記録者

企画広報課施設活用推進室 永野 友裕